

臨床研修医募集要項



独立行政法人
国立病院機構

九州医療センター

〒810-8563 福岡市中央区地行浜1丁目8番1号

2026年度研修開始予定者用

基本理念

病む人に寄り添い

安全かつ最適な医療を提供します。

運営方針

- 1 高度の先駆的総合医療を実施する
- 2 医療の安全管理に万全を期し、患者本位の安心・納得の医療を提供する
- 3 信頼と心の通う医療連携を通じ、地域社会への積極的な貢献を果たす
- 4 臨床研究を積極的に行い、医学の進歩に貢献する
- 5 医療従事者の研修、養成に指導的役割を果たす
- 6 医療に関する最新情報を積極的に発信する
- 7 健全経営を志向する

病 院 の 概 要

病 床 数 : 702床 (一般 650床、精神 50床、感染症 2床)

医 師 数 : スタッフ医師 (院長・副院長を含む) 174名
レジデント 59名、研修医 (歯科も含む) 58名 (2024年7月現在)

診 療 科 : 血液内科[7]、膠原病内科[4]、総合診療科[2]、代謝内分泌内科[4]、免疫感染症内科[3]、感染症内科[2]、腎臓内科[3]、高血圧内科[1]、脳神経内科[8]、呼吸器内科[6]、消化器内科[12]、腫瘍内科[3]、循環器内科[12]、精神科[3]、脳血管内治療科[4]、小児科[6]、肝胆膵外科[6]、消化管外科[7]、乳腺外科[4]、整形外科[8]、形成外科[2]、呼吸器外科[4]、脳神経外科[5]、心臓外科[3]、血管外科[3]、小児外科[2]、皮膚科[2]、泌尿器科[5]、産科・婦人科[9]、眼科[2]、耳鼻咽喉科[4]、放射線科[8]、麻酔科[11]、歯科・口腔外科[3]、病理[3]、救急部[3]、臨床検査[1]

注 ; []書きはスタッフ医師数 (2024年7月現在)

患 者 数 :	<2019年度>	<2020年度>	<2021年度>	<2022年度>
入 院	601.0名	540.9名	553.3名	571.2名
外 来	931.2名	836.0名	886.1名	909.0名

病院の沿革・特徴

九州医療センターは、21世紀に向けて国立医療機関にふさわしい機能の強化を図るため、国立福岡中央病院と国立久留米病院を統合し1994年7月1日に広くアジアに向かって発展する福岡市のシーサイドももち地区に開設された高度総合診療施設であります。

九州全域を診療圏とする高度先駆的医療、難病の専門医療、循環器疾患を主とする高度救急医療、高度周産期医療を主たる診療機能としてスタートいたしました。1999年3月には政策医療推進計画において、高度総合医療施設に位置づけられました。現在は循環器病、がん、血液・造血器疾患、肝疾患、成育、免疫異常疾患、内分泌・代謝疾患、腎疾患、感覚器疾患、精神疾患などの専門医療施設として、また病院機能評価認定病院、地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院、単独型臨床研修指定病院、エイズ・広域災害の九州ブロック拠点病院、救急告示病院 (救命救急センター) として、診療、臨床研究、教育・研修の3つの柱に情報発信という機能を加え、より多様な医療ニーズに応えています。

2004年4月、国立から独立行政法人へ移行し、現在では名実ともに九州を代表する医療施設に成長しましたが、より高い機能充実に向けて変革を続けています。

臨床研修プログラム

研修管理委員会

委員長	： 病院長	岩崎 浩己（教育責任者）
副委員長	： 臨床教育研修センター長	富永 光裕（プログラム責任者）
委員	： 副院長	岡田 靖
	副院長	中島 寅彦
	臨床研究センター長	高見 裕子
	統括診療部長	甲斐 哲也
	医療管理企画部長	福泉 公仁隆
	副教育部長	宮村 知也（膠原病内科部長）
	副教育部長/必須科担当	神野 俊介（小児科部長/小児科プログラム責任者）
	副教育部長/必須科担当	小川 伸二（産婦人科部長 /産婦人科プログラム責任者）
	副教育部長	野田 英一郎（救命救急部長）
		中村 千夏子（教育担当看護師長）
	必修科担当	辛島 裕士（麻酔科部長）
		岸原 康浩（総合診療科科長）
		石川 謙介（精神科部長）
	病理担当	桃崎 征也（病理部長）
	内科専門医担当	井上 修二郎（循環器内科部長）
	外科専門医担当	山崎 宏司（呼吸器外科科長）
	事務担当	吉弘 和明（事務部長）
		藤戸 寿教（給与係長）
		神谷 由紀子（職員係長）

臨床修練認定施設としての認定を受けている学会

日本内科学会、日本外科学会、日本産科婦人科学会、日本麻酔科学会、日本整形外科学会、日本核医学会、日本耳鼻咽喉科学会、日本皮膚科学会、日本眼科学会、日本小児科学会、日本小児外科学会、日本消化器外科学会、日本泌尿器科学会、日本胸部外科学会、日本消化器病学会、日本血液学会、日本腎臓学会、日本高血圧学会、日本リウマチ学会、日本医学放射線学会、日本呼吸器外科学会、日本病理学会、日本循環器学会、日本超音波医学会、日本消化器内視鏡学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本脳神経外科学会、日本乳癌学会、日本糖尿病学会、日本肝臓学会、日本神経学会、日本プライマリ・ケア学会、日本口腔外科学会、日本臨床細胞学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本放射線腫瘍学会、日本呼吸器学会、日本心臓血管外科学会、精神保健指定医常勤施設、日本周産期・新生児医学会、日本内分泌学会、日本老年医学会、日本静脈経腸栄養学会、日本脳卒中学会、日本IVR学会、日本婦人科腫瘍学会、日本臨床腫瘍学会、日本形成外科学会、日本頭頸部外科学会、日本透析医学会、日本肝胆膵外科学会、日本救急医学会、日本精神神経学会、日本不整脈学会・日本心電図学会、日本顎顔面インプラント学会、日本脈管学会、日本脳神経血管内治療学会、日本神経学会、日本病院総合診療医学会、日本カプセル内視鏡学会、日本急性血液浄化学会、日本消化管学会

臨床研修病院としての役割と理念・基本方針

研修理念：

プライマリ・ケアを基本に、総合的診療能力を幅広く身につけ、病む人に寄り添った医療が提供できるよう医師としての人格を涵養する。

臨床研修病院としての役割：

国立病院機構及び九州有数の高度総合医療施設として、地域の基幹病院として、質の高い医療を提供できる医師、広く教育研修や臨床研究、社会の医療福祉に貢献できる人材を育成する。

基本方針：

①人間性豊かである。

医業の尊厳と責任を自覚し、教養を深め、人格を磨き、人類愛を基に病む人に奉仕できる。

②医療全般にわたる広い視野と高い見識を持てる。

医学、医療の全般にわたる広い視野と高い見識を持ち、生涯を通じて医学知識と医療技術の習得に努める。

③病む人に寄り添った医療を実践できる。

患者の人格と権利を尊重し、患者と一体となって、患者中心・患者本位の全人的医療の推進に努める。

④チーム医療ができる。

職種の違いを越えて互いに尊敬し、協力し合い、日々の業務に励む。

⑤地域医療に貢献できる。

地域医療に関心を持ち、健康の保持、疾病の予防から社会復帰に至る医療全般の責任を有することを自覚し、行動する。

⑥国立病院機構病院としての責務を理解、実践する。

医療の公共性を重んじ法規範の遵守および社会秩序の形成に努める。

臨床研修病院としての特徴

当院では『診療』『臨床研究』とともに『教育研修』にも力を注いでいます。2004年度に開始された新医師臨床研修制度の発足以来、毎年25～30名の初期臨床研修医を受け入れており、すでに400名を超える修了生が各分野で活躍しています。『プライマリ・ケアを基本に、総合的診療能力を幅広く身につけ、病む人に寄り添った医療が提供できるよう医師としての人格を涵養する』という、初期臨床研修の理念に則ったカリキュラムを構築するとともに、最近ではスキルアップラボラトリーセンターを利用したシミュレータ実習を取り入れ、さらなる研修の充実を図っています。

2017年度からわが国の専門医制度が大幅に変わり、新しく設立された日本専門医機構のもとに日本内科学会・日本外科学会を始め、各学会の専門医制度が改革されました。当院でも初期臨床研修に続き、後期研修において医師としての人格を涵養、患者中心の診療、リサーチマインドを持った継続的な専門医研修プログラムを構築し、人材育成に努力しています。

さらに歯科医師臨床研修制度も整備しており、充実した指導医・上級医のもとで毎年2名の研修医を迎えています。看護職に対する教育・研修、新入職の医師やメディカルスタッフの教育・研修も定期的に企画され、年々充実しており、高度総合医療施設としての当院の機能強化と発展の礎となっています。2018年には「NPO法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）」が実施している卒後臨床研修評価を受審し、同機構の定める認定基準を達成していることが認められ、認定証が発行されました。

1. 研修設定プログラムの管理について

- 1) 施設：九州医療センターの全診療科、および研修協力施設。
- 2) プログラムの管理運営：月に1回臨床教育研修委員会を開催し、研修プログラムの立案・修正、各研修医の研修計画についての協議、各研修プログラムへの研修医の配置を行うと共に、研修に関するその他の具体的事項を決定します。研修の修了時には各研修医の評価を行います。

2. 研修教育課程(予定)

研修医の配置と期間（スーパーローテイト方式）

1 年次

総合プログラム(定員 22 名)

	24週以上			12週以上	12週以上	
1 年次	内科(1)	内科(2)	内科(3)	救急	外科(1)	外科(2)

小児科プログラム(定員 2 名)

	24週以上			12週以上	12週以上	
1 年次	内科(1)	内科(2)	内科(3)	救急(麻酔科 4 週)	外科(1)	外科(2)

産婦人科プログラム(定員 2 名)

	24週以上			12週以上	12週以上	
1 年次	内科(1)	内科(2)	内科(3)	救急(麻酔科 4 週)	外科(1)	外科(2)

広域連携型プログラム(定員 3 名)

	24週以上			12週以上	4 週以上	4 週以上	4 週以上
1 年次	内科(1)	内科(2)	内科(3)	救急(麻酔科 4 週)	総診 (一般外来)	外科	小児科

2年次

総合プログラム(定員 22名)

	4週以上	4週以上	4週以上	4週以上	4週以上	8週以上	20週以上
2年次	地域医療	精神科	総診 (一般外来)	小児科	産婦人科	麻酔科	希望選択

小児科プログラム(定員 2名)

	4週以上	4週以上	4週以上	12週以上	12週以上	4週以上	8週以上
2年次	地域医療	精神科	総診 (一般外来)	小児科 (九州医療センター)	小児科 (こども病院)	産婦人科	希望選択

産婦人科プログラム(定員 2名)

	4週以上	4週以上	4週以上	4週以上	4週以上	4週以上	24週以上
2年次	地域医療	精神科	総診 (一般外来)	小児科	麻酔科	病理	産婦人科

広域連携型プログラム(定員 3名)

	8週以上または12週以上	4週以上	4週以上	12週以上または16週以上	16週以上
2年次	広域連携(1) ※地域医療4週含む	産婦人科	精神科	広域連携(2)	希望選択(最大4科)

内科(10科)：循環器内科、消化器内科、脳血管内科、代謝内分泌内科、呼吸器内科、腎・高血圧内科、血液内科、膠原病内科、腫瘍内科、感染症内科

外科(8科)：消化管外科、肝胆膵外科、呼吸器外科、脳神経外科、心臓外科、泌尿器科、血管外科、乳腺外科

地域医療：博愛会病院、田川市立病院、柿添病院(平戸)、光武内科循環器科病院(老岐)、指宿医療センター、延岡共立病院(延岡)、にのさかクリニック

選択科：全診療科(整形外科、脳血管内治療科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、小児外科、形成外科、病理を含む)

広域連携：調整中

3. 勤務時間、休暇、及び夜勤

- 1) 勤務時間：平日 ・ 8時30分から16時30分 ※診療科により異なる
 ・ 13時00分から21時00分 ※遅出勤務 月に1回程度
 土日祝 ・ 8時30分から16時30分 ※月に1~2回
- 2) 年次休暇：年間20日
- 3) 夜勤：月 1~2回 16時45分から8時30分

4) 時間外勤務：年間 360 時間以内（月間 45 時間以内）

※広域連携先病院の勤務時間、休暇、及び夜勤は広域連携先病院の就業規則等により異なります。

4. 教育に関する行事

- 1) 研修開始式：研修開始日に研修開始式を行い、院長の挨拶と事務的伝達を行います。
- 2) オリエンテーション：（4月1日より数日予定）院内諸規程、施設、設備の概要と利用法、健康保険制度、医事法規、医療事故防止、電子カルテの使用法、カルテ情報管理、研修プログラムなどについて一連のレクチャーを行います
- 3) 研修教育プログラム：毎月第2木曜日、16時30分より研修室において研修医対象の研修教育プログラムを実施しています。内容は研修医自身が企画し、症例発表・ショートレクチャーを行っています。研修医の発表も義務付けられています。
- 4) CPC：年に3～5回程度開催されます。
- 5) 各科の回診、症例検討会、セミナー、抄読会があります。
- 6) 各科での研究会、学会（地方会、総会）での発表の機会が多くあります。

5. 研修の評価法

研修の評価には、オンライン研修評価システム（PG-EPOC）を利用します。各研修医には研修開始時に到達目標を記載した研修プログラムを配布し、研修期間に履修すべき項目について理解して頂きます。研修医は研修終了時に PG-EPOC を用いた自己評価と研修プログラムの評価を行い、指導医は研修医の評価を行いません。また、指導医および研修管理委員会は各研修医の履修状況を随時点検し、期間中に到達目標が達成されるよう支援します。

6. 研修プログラムの修了の認定

臨床教育研修センターより研修医の研修目標の達成が報告された研修管理委員会は、協議のうえ研修の修了を認定し、この研修プログラムを修了したことを記した「研修修了証書」を病院長の承認のもとに授与いたします。

7. 研修プログラム修了後のコース

九州医療センターにおいて、専門医プログラムの専攻医として引き続き研修を継続、大学医学部の医局に入局して臨床研修を継続あるいは大学院に進学するなどの進路があります。

8. 研修医の処遇

- 1) 身分：期間職員 ※アルバイト禁止
- 2) 加入保険等：社会保険、厚生年金、雇用保険、労働者災害補償保険
- 3) 給与：規定による給与が支給されます。 月額 約 300,000 円（税込）
- 4) 研修医宿舎：有り
- 5) 食事：職員食堂あり

※広域連携先病院の処遇等は広域連携先病院の就業規則等により異なります。

9. 出願手続

- 1) 応募資格：第120回医師国家試験合格し医師免許取得見込みの者
- 2) 出願期間：2025年7月1日（火）～7月31日（木）必着
- 3) 出願書類：次の書類を臨床教育研修センターまで提出してください。
 - ① 選考申込書兼履歴書（当院所定様式）
 - ② 卒業証明書または卒業見込書
 - ③ 成績証明書、CBT個人成績表（本試）
 - ④ 推薦状
 - ⑤ 受験票貼付用写真1枚（選考申込書貼付用写真と同じ大きさ）
 - ⑥ 返信用封筒1通（110円切手貼付、長3封筒で各自、宛先住所の記入をお願いします）

10. 選考方法

面接および試験（小論文等）による選考を行なう予定
試験日：2025年8月17日（日）

11. 組み合わせ決定

2025年10月 医師臨床研修マッチング協議会によるマッチングで決定

12. 研修開始日

2026年4月1日（水）

13. 申込み・問い合わせ先

〒810-8563 福岡市中央区地行浜1丁目8番1号

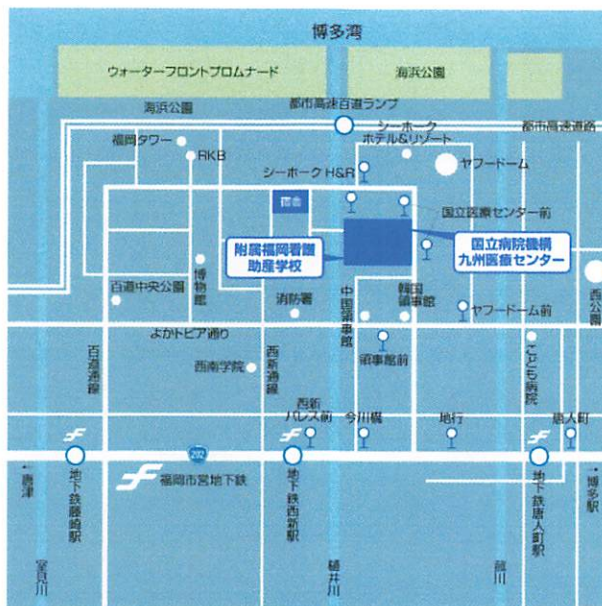
独立行政法人国立病院機構 九州医療センター

臨床教育研修センター

TEL：092-852-0700 FAX：092-847-8802

URL：<https://kyushu-mc.hosp.go.jp/>

E-mail：602-kengaku@mail.hosp.go.jp



独立行政法人 **九州医療センター**
 国立病院機構

〒810-8563 福岡市中央区地行浜1丁目8番1号
 TEL:092-852-0700 FAX:092-847-8802